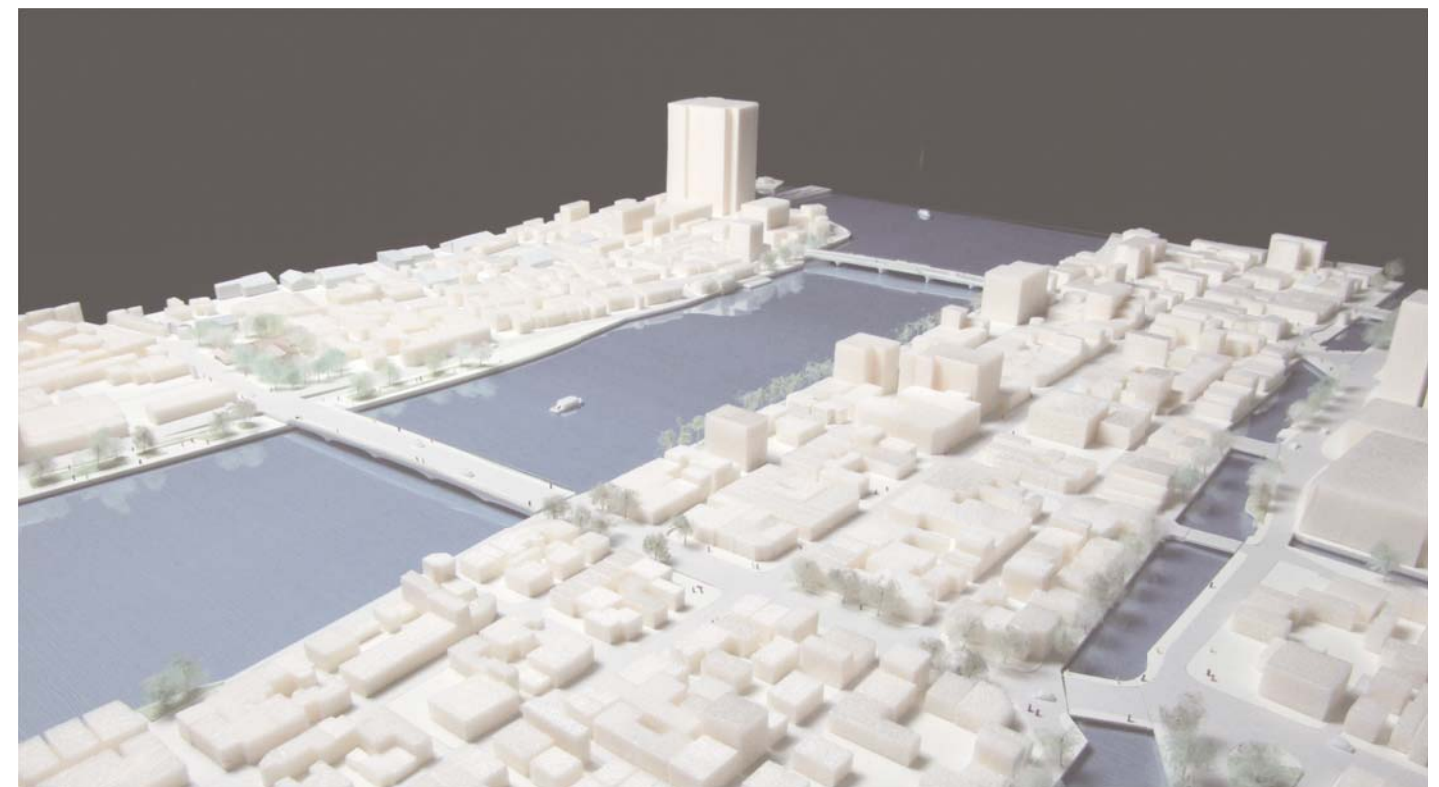
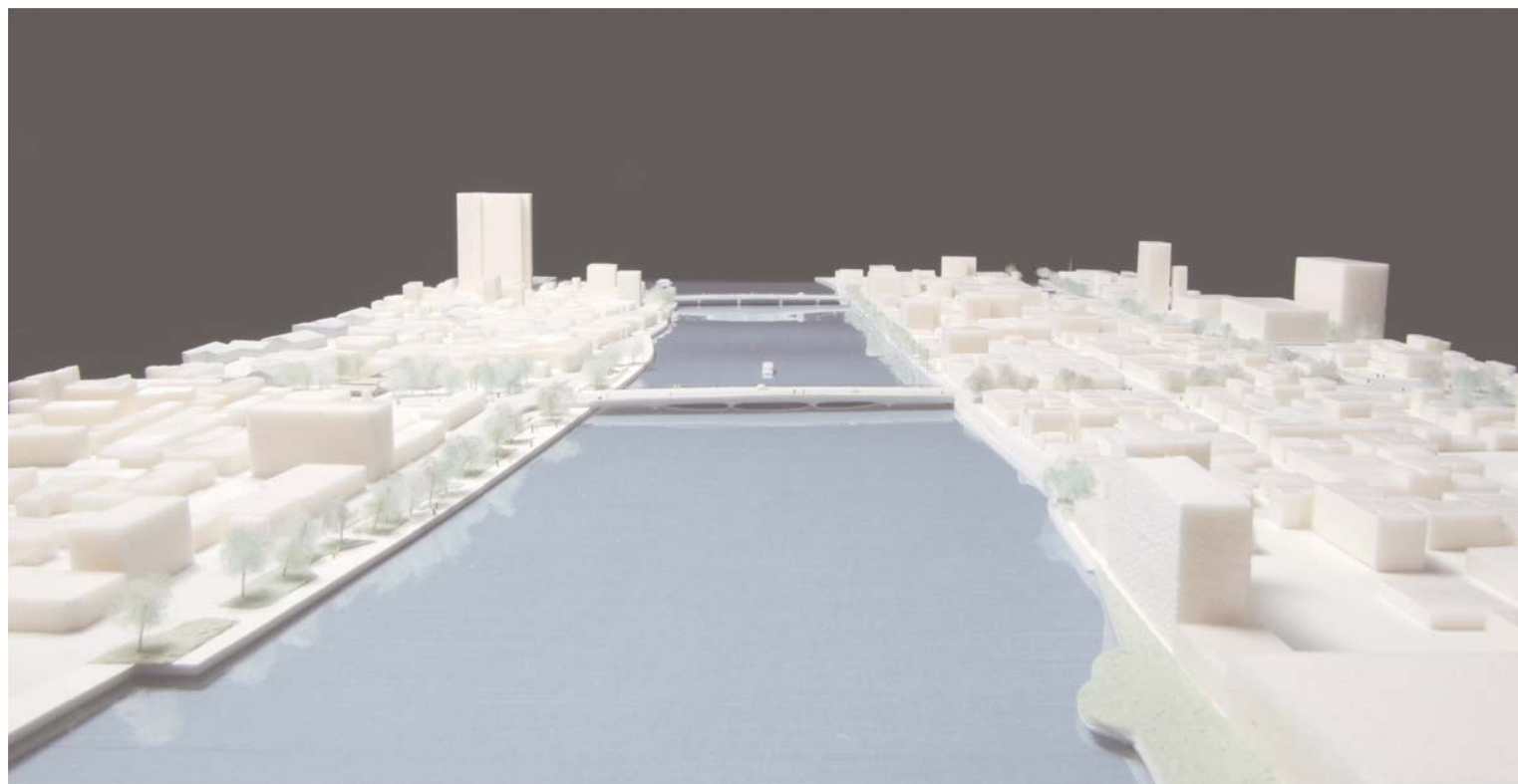


新大橋整備基本方針（素案）について

1. 前回委員会議論の振り返り
2. 新大橋整備基本方針（素案）
3. 橋梁形式の方向性



前回委員会資料 (2016.12.26) の提案まとめ

□新大橋に関わる要点の整理

松江の都市形成

- ・市街地の拡大とともに、橋が新設されてきた
- ・古くからのまちの骨格が色濃く残っている

新大橋の変遷

- ・新大橋は初代、二代目ともに「多径間の桁橋」である（大橋川の他の橋も同様）
- ・どちらも低くシンプルな橋であり、水辺ののびやかな風景を構成している

現況の主要施設配置

- ・新大橋と大橋周辺エリアは、両岸のまちをつなぐ重要な場所に位置する
- ・同時に、まちと水辺をつなぎつつ大橋川沿いのつながりを形成することも重要

現況の交通状況

- ・松江大橋ほどではないが、新大橋も歩行者等の利用は一定量ある
- ・まちあるきルートとの動線のつながりを考慮する必要がある

□大橋川周辺の特徴

河川景観

- ・大橋川は松江市の「景観重要公共施設」として位置づけられている
- ・「水と人、川とまちの近さ」という特徴がある
- ・幅広のまっすぐな河道であり、まわりは高い建物が少ない
→ 水平方向にのびやかな風景が広がっている

まち並み

- ・両岸ともに、戸建ての建物が並ぶ飲食店の多いエリア
- ・南北で街の性格や水辺との関係性がやや異なる

橋梁

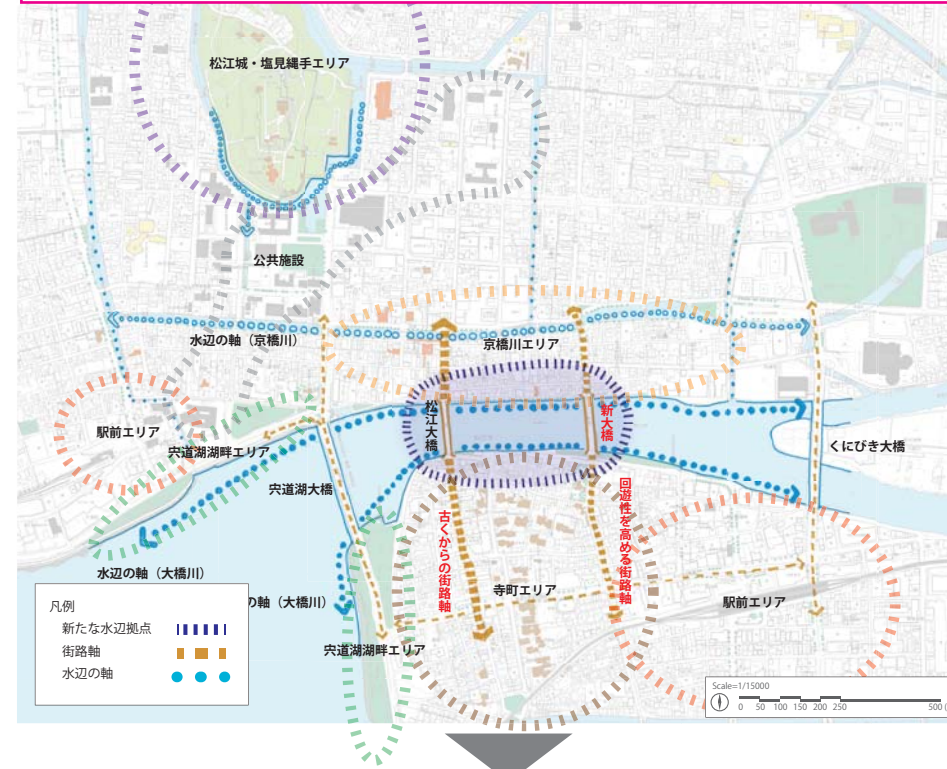
- ・内環状道路の宍道湖大橋・くにびき大橋と比べ、新大橋と松江大橋は橋長が短くて高低差も少なく渡りやすい
- ・まちなみとも調和したシンプルかつヒューマンスケールの橋である
- ・歩道は広くはないが、車道との境界に柵は無く、やや広い印象
- ・上下流の水面が眺められる水辺に開いた橋上空間となっている

橋詰空間

- ・両岸とも、橋詰における民地との高低差処理とともに、スムーズな動線確保が課題である
- ・南岸側には、緑陰のある人のための空間が整備されている

■新大橋整備の目指すこと（案）

- ・まちと水辺が近く、伸びやかな大橋川の風景を引き立てる橋
- ・新大橋から松江大橋における大橋川沿いのエリアが「新たな水辺の拠点」として、散策や滞留を楽しむ市民の居場所になることに貢献できる橋
- ・兩岸のまちをつなぎ、歩行者の回遊性を高めることで、松江のまち全体の魅力アップに貢献できる橋



【新大橋に求められること】

『松江らしさ』や『大橋川原風景』を活かすため、新大橋には以下のようなことが求められると考えられる

① 水平方向にのびやかな「河川景観」との調和

- ・水辺やまちの風景が主役となる橋であること
- ・上部に高い構造を出さないシンプルな形状であること
- ・できるだけ縦断勾配が低く、左右対称に近い橋梁であること

② 「ヒューマンスケール」の橋であること

- ・構造物自体のボリュームが小さく抑えられていること
- ・周囲の構造物（大橋、低い護岸、戸建ての建物など）と相性が良いこと

③ 「歩行者利用」への配慮

- ・できるだけ縦断勾配が低く、歩行者・自転車が渡りやすいこと
- ・歩行者が安心して快適に利用できるような空間とすること

④ 「人と水、川とまちの近さ」を実現する橋面および橋詰空間

- ・橋詰における取り付け高を低く抑え、まち～水辺のスムーズな動線を確保すること
- ・水辺を身近に感じられるような、水辺に開いた空間とすること

第 1 回委員会での主な意見

コンセプトや設計方針に関連するものを中心に要点を整理

1 河川(国) + 橋(県) + まちづくり(市) が一体となり、景観だけでなく、まちの魅力高めるための議論をすべき。

- ・100年スパンでいろいろな角度から
- ・松江のまち全体の魅力アップに貢献できる橋

2 人が回遊し、ゆっくりと時間を使うような水辺空間を。

- ・人の動線、水辺への近づきやすさ、連続した水辺ルート、などを検討すべき
- ・大橋川周辺まちづくり基本計画にて、水辺の回遊性は基本的な方針
- ・魅力的な川沿いの歩行ルートをつくり、人の流れを生み出せるか

3 歩行者優先の橋詰空間が必要。

- ・橋詰空間のデザインは重要
- ・北岸道路は、歩行者の安全性のため車両乗り入れを制限することも考えられる
- ・沿道住戸への車両アクセスについて、住民とのコンセンサスが必要

4 橋の上に佇んで川を眺めたくなる歩行者空間づくりを。

5 前後区間との連続性を考慮し、自転車でも渡りやすい橋に。

- ・自転車通学などの学生も多く、自転車の使い勝手は重要
- ・歩道と自転車道の幅員構成も検討すべき

6 多様な視点場があることに留意すべき。

- ・水面や船からの橋の見え、大山とともに見る松江大橋からの眺め
- ・新大橋からの眺めも含め、大橋川沿いの景観との調和が必要

7 新大橋の特徴づけの議論が必要

→ シンプルな中にキラッと光る橋を目指す。

- ・昼夜を考慮した照明デザイン、橋のイメージを左右する高欄のデザイン、など
- ・若い元気なまちになっていくことを後押しするような、洗練された部分も必要

■ 2. 新大橋整備基本方針（素案）

テーマ

『水都・松江の風情を彩り、 新しいふるさとの原風景をつくる橋』

大橋川は、^{だけさん} 嵩山や^{わくらやま} 和久羅山の山並みと^{たけ} 霊峰・^{おほやま} 大山を背景に、柳そよぎ情緒あふれる街並みと一体となった水都・松江を代表する水辺です。この川に架かる松江大橋と新大橋は、伝統と未来という、いわば親子のような関係として、永く市民の暮らしを支え、大橋川の風景を形作ってきました。

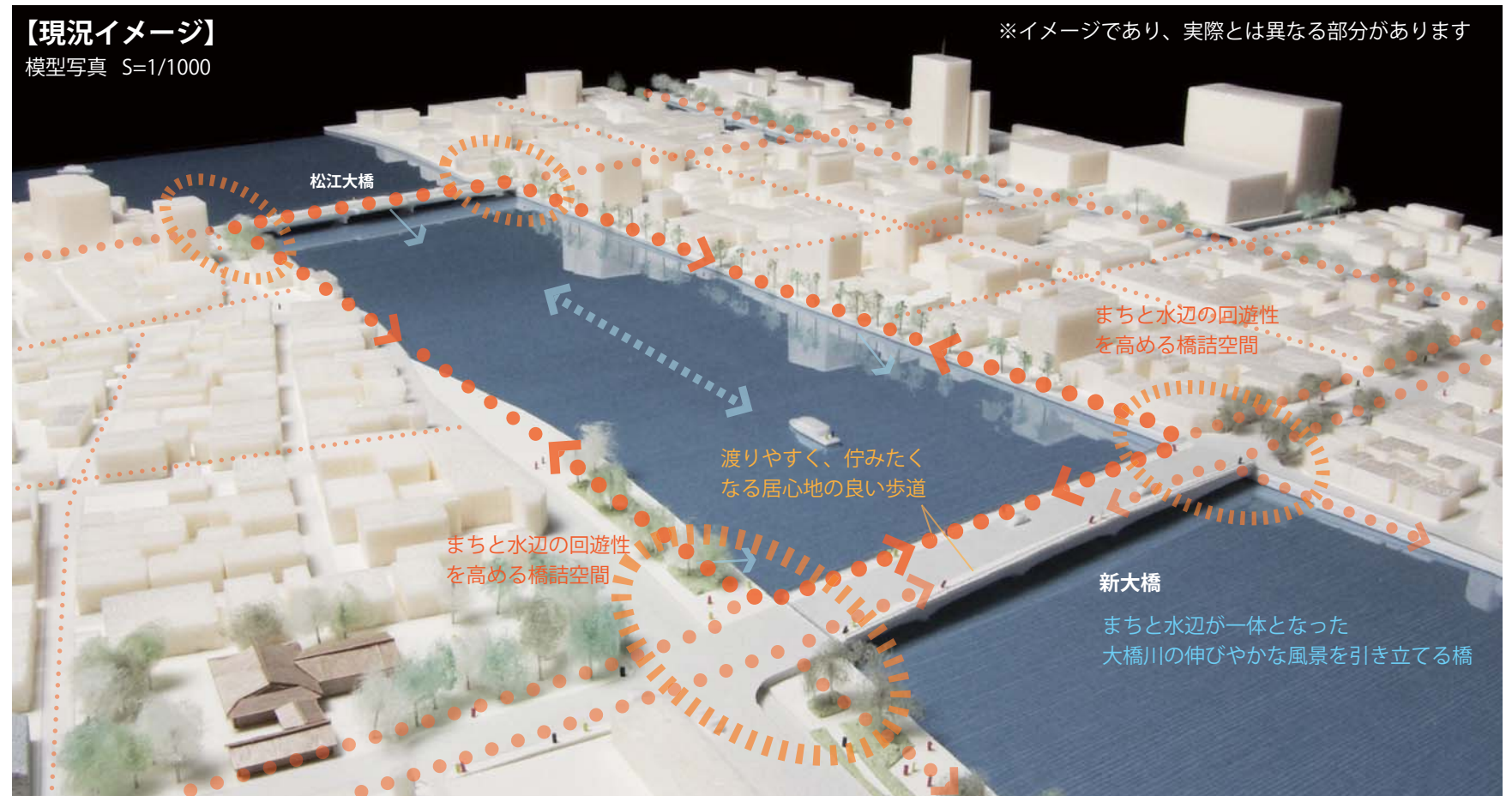
このたび、架橋から 80 年以上が経つ新大橋は、大きな地震への対応と歩きやすい歩道の実現のため、大橋川の改修に合わせて、新しい橋へと架け替えることになりました。

新しい新大橋の設計にあたっては、水都・松江の風情を彩る現代的で佳麗な姿と、^{かたじけなく} 渡りやすく^{たたく} 佇みたくなる歩行空間、まちと水辺の回遊性を高める橋詰空間を備えたデザインとします。

これにより、通学時に眺めた朝靄に煙る姿や、家族と河岸から眺めた青空に映える姿というように、大橋川周辺が市民ひとりひとりの原風景となり、ふるさと・松江への愛着と、まち全体の魅力をより高めるような橋を目指します。

コンセプト 上記テーマ達成に向けて、計画上大切にすべき 3 つの柱

- ・まちと水辺が一体となった大橋川の伸びやかな風景を引き立てる橋
- ・渡りやすく、佇みたくなる居心地の良い歩行空間
- ・市民の居場所となる水辺広場や川沿いのまちへの回遊性を生み出す橋詰空間



設計方針

コンセプト実現に向けて、設計上の具体的な留意事項

① 全体方針

- ・新大橋と松江大橋との関係性を際立たせるよう、城下町の雰囲気と継承する松江大橋に対して、新大橋は新しいまちの賑わいにつながる、モダンなデザインの橋とします。
- ・長い年月を経ても見飽きない橋とします。
- ・松江大橋や大橋川の両岸など重要な視点場に囲まれているため、眺める場所（距離・角度）や時間帯によって、異なる表情を楽しめるデザインとします。
- ・遠景では歴史的まちなみや水辺と調和するオーソドックスかつシンプルな形態とし、近景ではまちのこれからを期待させる洗練された深みのあるデザインとします。

② 橋梁本体のデザイン

- ・水辺やまちの風景が主役になるように、上部に構造がなく、風景のスケールに合う橋梁形式（桁橋）とします。
- ・大橋川に対し左右対称となり、水平方向への伸びやかさと水面との近さを両立する桁形状と、風景のスケールにあう支間割による側面シルエットとします。
- ・歩行者や自転車利用者が渡りやすいように、縦断線形を低く抑えられる橋梁形式とします。

③ 橋上空間のデザイン

- ・歩きやすく、どこでも佇みたくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・まちや水辺とつながる灯りのデザインとします。

④ 橋詰のデザイン

- ・背後の街路やまちと一体となった『歩行者優先の空間デザイン』とします。
- ・新大橋と橋詰そして川沿いの街並みがスムーズにつながる橋詰空間とします。
- ・橋詰には座って橋を眺められるような溜まり空間をつくり出します。

⑤ 市民参加のデザイン

- ・計画段階から市民に参加してもらい、愛着ある橋とします。
- ・見学会やイベントなど、市民参加型の取り組みをおこないます。

3. 橋梁形式の方向性について

橋梁には、その構造形式・材料などによってさまざまな形式があるが、大きく分類すると、主構造と路面との位置関係によって「上路」ないし「下路」の2つに分けられる。(下表参照) (※)主構造とは：橋の形を保つための主要な構造部材のこと

次の表では、これら3つの形式に対し、整備基本方針（素案）で触れた「渡りやすさ、居心地の良さ」「大橋川の伸びやかな風景との調和」の観点に「構造・施工」「経済性」を加え、それぞれ特徴を比較する。



松江大橋からの眺め

※下はあくまでイメージであり、今回条件で詳細に検討した図ではありません
※すべての構造形式を載せているわけではありません

橋梁の形式	代表的な構造形式イメージの例 <small>※図出典「橋のディテール図鑑」、一部加筆</small>	主な特徴 <small>新大橋計画にとってのメリット デメリット</small>	評価
<p>上路</p> <p>路面が主構造の上部に位置している (=現在の橋と同じ)</p>	<p>桁橋</p> <p>主構造</p> <p>赤線：路面位置</p>	<p>渡りやすさ 居心地の良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桁の上に路面がくるため、下路にくらべて路面はやや高くなる ・路面上に構造が無く、橋上からの景色を阻害するものが少ない <p>風景との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低く水平方向に伸びやかなシルエットとなる <p>構造・施工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋脚は多く河川内での工事が必要だが、一般的な構造形式である <p>経済性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の形式に比べて総工費を抑えることができる 	<p>材料や構造全体の工夫により、桁高を低くして周辺への影響を抑える必要があるが、水辺が近く伸びやかな大橋川の風景との相性や経済性の面で大きなメリットがあり、新大橋に適した形式である</p>
<p>下路</p> <p>路面が主構造の下部に位置している</p>	<p>斜張橋</p> <p>主構造</p> <p>アーチ橋</p> <p>主構造</p> <p>赤線：路面位置</p>	<p>渡りやすさ 居心地の良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路面下の桁が薄くできるため、路面高さをやや低くできる ・路面上の構造部材が、橋上からの景色を阻害する <p>風景との調和</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構造が高く立ち上がり、伸びやかな河川景観の中ではよく目立つ <p>構造・施工</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎を含めて大きな構造物となる ・広い施工ヤードが必要 <p>経済性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の形式に比べ、総工費が割高となる 	<p>路面をやや低くできるというメリットはあるもの、大橋川の伸びやかな河川景観を生かすことができず、かつ経済性の面でも不利であるため、新大橋に適切な形式とは言えない</p> <p>※トラス橋だった第15代松江大橋は、橋からの眺めが悪いことなどから大変不評だった (参考文献：s55 年度松江大橋調査検討業務報告書)</p>

※路面が主構造の中間部に位置している「中路」という形式もあるが、上の表に記載した上路・下路のデメリットを併せ持ち、今回の新大橋にとってはメリットがほとんど無いことから、比較表から外すこととした